

事務事業名	集会所施設管理事業	事務事業No.	112 - 1
-------	-----------	---------	---------

1. 基本情報						
担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
市民協働部	人権・同和政策課	人権・同和対策係	主事補	原 真央	課長	坂口 信治
施策体系	総合計画	政策	1	人権・市民参画		
		施策	1	人権尊重のまちづくりの推進		
		基本事業	2	人権尊重のまちづくりに向けた総合的な取組の推進		
	その他の計画	個別計画	なし			
根拠法令・条例・要綱等	なし					
事業開始年度	昭和44年度	事業終了年度	なし	事務事業類型	施設維持管理事業	
実施手法	全部直営	補助金等の支給	なし	実施計画期間	なし	

2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と運動）

概要	26箇所の集会所について、経年劣化による老朽箇所の補修や台風等による破損部分の修繕などを行い維持管理していく					
対象	働きかける相手・もの	市内26箇所の集会所				
手段	方法・働きかけ（活動指標）	定期的な点検（目視点検）を行うことで老朽化（劣化）の状況を把握し、経年劣化による老朽箇所の補修及び台風等による破損の修繕等を実施する				
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	地域住民の社会教育や生活文化の向上など福祉の増進に寄与するための施設として維持管理していく				

3. 活動指標（決算成果説明書と運動）

指標名	単位	指標の説明（算式等）	前年度実績	本年度実績	次年度見込
修繕等を行った集会所数	箇所	修繕等行った集会所数	5	4	4
災害により修繕を行った集会所のべ数	箇所	修繕等行った集会所数	0	0	0

4. 成果指標（決算成果説明書と運動）

指標	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
改修要望に対する改修実施割合	%	100	100	100	100
説明	方向性	達成目標年度	実績	100	100
	維持	なし			

5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と運動）

経費区分	一般会計	経常経費	特別会計	-	
予算科目・事業	会計 1 一般会計	款 3 民生費	項 1 社会福祉費	目 5 集会所費	
	大 1 集会所等施設管理事業費	中 4 集会所施設管理費	他 0 事業		
投入人員 (当該事務事業に 対して1年間に投 入した人員)	(R2以降)	前年度実績(千円)	本年度実績(千円)	増減理由 (10%以上の場合)	次年度予算(千円)
	正職員	0.13 人 1,016	0.13 人 1,033	令和5年度：樹木等管理委託料 486,200円増	0.13 人 1,033
	任期付職員(保育士)	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	任期付職員(CW・水質)	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	再任用フル	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	再任用短	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	1級フル	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	1級パート	0.00 人 0	0.00 人 0		0.05 人 105
	2級パート	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
人件費計 (A)	1,016	1,033			1,138
事業費	直接事業費 (B)	489	1,296		1,615
	総事業費 (A+B)	1,505	2,329		2,753
直接事業費のうち の主な歳出内訳	需用費	301	592		834
	工事請負費	0	0		0
財源内訳	使用料・手数料 (受益者負担分)	0	0		0
	国・県支出金	0	0		0
	市債	0	0		0
	一般財源	1,505	2,329		2,753
	その他 ()				

6. 事務事業の事後評価★		
評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性 評価	高い	現在、「飯塚市公共施設等のあり方に関する実施計画」に基づき地元移譲を進めている。しかし、それまでは行政財産であり、施設を支障なく使用するために老朽箇所や雨漏り等が生じた際には早急に対応する必要がある。また、行政財産である維持管理事業であり、特定の個人や団体に受益が偏ってはいない。
効率性 評価	高い	地元移譲を進めていくことで集会所施設管理費の削減は可能である。また、類似事業、関連事業もなく地元との協議を行ったうえで緊急性と必要性を判断し実施している。
有効性 評価	高い	4箇所の集会所で必要な修繕を実施したことで期待される効果が得られ、市民の方が支障なく利用することができており上位施策にも貢献できている。また、現在「飯塚市公共施設等のあり方に関する実施計画」に基づき地元移譲を進めているが、それまでの間は施設を支障なく使用するために老朽箇所や雨漏り等が生じた際には早急に対応しなければならないため事業の継続は必要である。

7. 前年度評価時の計画と実績			
前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	方向性		
一次評価	⑤コスト・成果ともに現状維持	次年度以降に予算（コスト）を必要とせず、直ちに実施できる改善策	関係団体及び地元自治会と移譲について継続して協議を進め、移譲を進める。所管する集会所については、定期的な点検（目視点検）を行い、老朽化（劣化）の状況を把握する。
		次年度以降に予算（コスト）増を必要とし、中長期的に実施する改善策	老朽箇所等の修繕及び工事について、緊急性（必要性）があると認められる箇所については、二次被害が発生する前（余計な費用が掛からないように）早急に対応していく。
前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度を実施できたこと、などを記入			
全ての集会所について、目視での点検を実施した。また、地元から要望があった個所の修繕については現地調査を行い、緊急性（必要性）があると判断した個所について早急に補修を実施した。			

8. 今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★	
成果	太郎丸二区集会所（外壁不良箇所）、秋松西集会所（トイレ）、上ノ原集会所（玄関鍵取替）、小瀬隈集会所（水道設備）の修繕を実施した。
課題	今後とも地元との移譲協議を進めていくが、築30～40年経過している集会所が多く、今後も一定の維持管理費が必要である。

9. 今後の事業の方向性と改善策	
成果の方向性	（理由） 今後とも地元との移譲協議を進めていくが、築30～40年経過している集会所が多く、今後も一定の維持管理費が必要である。
拡充	
コスト投入の方向性	（理由） 今後とも地元との移譲協議を進めていくが、築30～40年経過している集会所が多く、今後も一定の維持管理費が必要である。
拡充	
次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	関係団体及び地元自治会と移譲について継続して協議を進め、移譲を進める。所管する集会所については、定期的な点検（目視点検）を行い、老朽化（劣化）の状況を把握する。
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	老朽箇所等の修繕について、緊急性（必要性）があると認められる箇所については、二次被害が発生する前（余計な費用が掛からないように）に早急に対応していく。

評価変更理由	成果の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・「成果の方向性」は現状維持、「コスト投入の方向性」は現状維持とする。 ・人口減少や高齢化も進む中、施設も老朽化するため、施設の統廃合も視野に入れながら、地元との協議を行うこと。 ※事前2次評価時に担当課より、1次評価の「成果の方向性」及び「コスト投入の方向性」を現状維持へ修正したい旨の説明があった。
	現状維持	
	コスト投入の方向性	
	現状維持	